

Affiliated with the International Association  
THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO HACHIOUJI  
Chartered October 30, 1994



〒192-0911  
東京都 八王子市打越町 334-2-5-201  
花輪 宗命 TWL : 090-2213-0257  
Fax: 042-636-6157  
E-mail : hanamate@rk9.so-net.ne.jp

2022年 10月

The Service Club of The YMCA

第328号

## 東京八王子ワイズメンズクラブ

会長	花輪 宗命	国際会長 Samuel Chacko (india)
副会長	茂木 稔	主題「フェロウシップとインパクトで次の100年へ」
書記	久保田 貞視	スローガン「自己を越えて、変化を起こそう」
会計	長谷川 あや子	アジア太平洋地域会長 Chen Ming Chen 主題:「新しい時代とともに エレガントに変化を」 スローガン「今すぐ実行を」
直前会長	山本 英次	東日本区理事 佐藤 重良 (甲府 21) 主題:「未来へ向けて今すぐ行動しよう」
担当主事	菅野 牧夫	スローガン「誰かのために奉仕して 自分のための楽しいクラブライフを！」
ブリテン	山本 英次 茂木 稔 大久保 重子	あずさ部部长 後藤 明久 (富士五湖) 主題「ワイズへの参加と交流を楽しもう」 八王子ワイズ会長 花輪 宗命 主題「感謝と報恩奉仕」

### 今月の聖句(2022年10月)

「あなたがたに新しい戒めを与える。互いに愛し合いなさい。私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによってあなたがたが私の弟子であることを、皆が知るであろう。」  
(新約聖書/ヨハネによる福音書 13:34-35)

### 10月 例会プログラム (リアル例会)

日時: 10月8日(土曜日) 18:00~20:00  
場所: 北野事務所2階大会議室  
(担当: B班 花輪、望月、並木真、久保田)  
受付: 望月 司会: 久保田

- ・開会点鐘 花輪会長
- ・ワイズソング 一同
- ・ワイズの信条 一同
- ・ゲスト・ビジター紹介 花輪会長
- ・あずさ部部长挨拶 後藤明久氏(富士五湖)

(第1部)

- ・卓話「日本外交の重要性」  
竹元 正美 様(元外交官・大使)

(第2部)

- ・聖句・食前感謝 並木 真

会食

- ・東京 YMCA 報告 菅野担当主事
- ・報告・連絡事項 会長・各委員
- ・スマイル 望月
- ・Happy Birthday (小口多津子さん 並木 真さん)
- ・ゲスト・ビジターより一言
- ・閉会点鐘 花輪会長

### 巻頭言

#### 甲府やまなみクラブチャーターナイト

長谷川あや子

2022年9月3日、甲府やまなみクラブチャーターナイトに、花輪会長、久保田さん、小口さんとともに4人で出席いたしました。チャーターナイトに先立っての6月11日の設立総会はコロナ禍ということもあり、人数を制限して行われましたが、チャーターナイトは満を持して、来賓の山梨YMCA 野々垣健五理事長・山梨MCA 中田純子総主事、東日本区役員を始め北東部、関東東部、東新部、湘南・沖縄部、富士山部、そして我があずさ部メンバーがお祝いに駆け付けました。

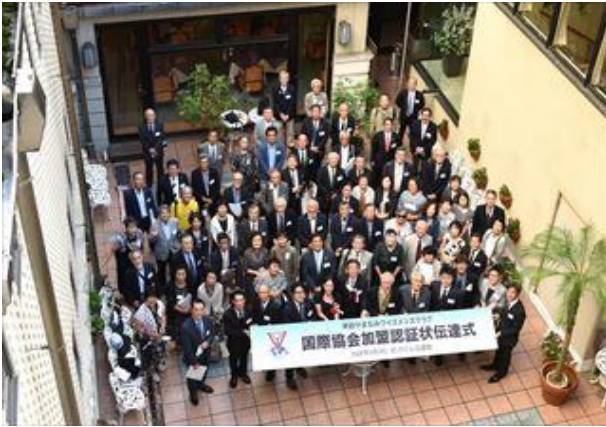
第一部の加盟認証状伝達式は佐藤重良東日本区理

#### 先月の例会ポイント (9月)

在籍	12名	切手(長谷川・津田)	60.9g
		海外31g	計639.3
メン	12名	現金	0円
メイキャップ	0名	累計	0円
出席率	100%	スマイル	10250円
メネット	1名	累計	21850円
ゲスト	1名	オークション	0円
ビジター	7名	累計	0円
ひっじぐも	3名		

事の式辞の後、認証状が伝達され東日本区役員より新メンバーにチャーターバッジが装着されました。クラブバナーの披露、記念品贈呈(ランチョンベル・万国旗、ワイズソング・YMCAの歌バナー、クラブバナー)、あずさ部から支援金贈呈が行われ、甲府やまなみクラブ会長の藤原一正さんより決意表明があり第一部を終了いたしました。

中庭で屋上のカメラを見上げての記念撮影の後、第



二部の祝会に進みました。開会に先立ちフラメンコのアトラクションがあり、美しく激しくお祝いの席を一気に盛り上げてくれました。激励の言葉を元国際会長藤井寛敏さんと元東日本区理事原俊彦さんから頂きました。お二人ともスポンサーの甲府クラブとは30年以上のお付き合いがあり、尊敬と親愛の情にあふれた激励でした。出席クラブ紹介の中では、石巻広域クラブ青木満里恵会長が2016年のクラブチャーターナイトの時、甲府からいらして下さったお礼を述べられました。ワイズのひととひとの繋がりを改めて強く感じました。

甲府クラブは70周年記念事業として新クラブ設立を目指し、2019年5月からその準備は始まりました。毎月の準備会も順調に進んでいる中、コロナ禍が始まり突然ストップを余儀なくされましたが、そんな状況でも努力を続けられ、3年の月日を経て2022年9月のチャーターを喜びをもって迎えられました。たゆまぬご努力に頭が下がります。

あずさ部の第1回評議会は「うぶごえが聞こえる評議会」というチャーミングなネーミングで新クラブの設立を応援いたしました。愛とユーモアにあふれていましたね。多くの人の愛を受けて出発した甲府やまなみクラブですが、10月2日のやまなみグローバルフェスタ2022の共催をされています。うぶごえからすでに歩き始めています。これから  
長、ご発展をお祈りいたしま



のご成心から  
す。

## 2023年3月のチャリティーコンサート中止

小口多津子(CS 実行委員)

クラブ誕生以来、東京八王子クラブといえば、日本地雷廃絶キャンペーンへの支援の3月チャリティーコンサートでした。クラブの別名称でもあり代表的な行事でもあり、このコンサートに向けて、クラブ全員のワイズ冥利でした。1年を通してクラブ活性の元となっています。その準備は、7月頃に出演者が決まり、打ち合わせをし、会場確保、チラシ作成、チケット販売等が、この21回までは順調にすすめてくることができました。

ところが、2020年からは、世界を席卷したコロナ感染の事態に振り回されて、その間、今年こそはと途中まで準備しては、今年までのこの3年間は中止でざるを得ず、ご出演下さるソプラノの奈良原繭里さんに、結果的には本当にご迷惑をおかけしてしまいました。

何故か、チケットを売って、準備も整い始めた、1月頃にかけてコロナがぶり返ってきて、それには本当に翻弄された、としか思えませんでした。昨年に至っては12月に猛威となり、足踏み状態になりその頃の例会は、その話し合いで始終しました。何といっても一番の重責にあった、この3年間の実行委員長だった久保田貞視さんのご心労は言葉では言い表せません。

過去21年間のチャリティーコンサート、一番の目的はJCBL(日本地雷廃絶キャンペーン)への寄付と、あわせて東日本大震災支援へ支援金も加わりました。しかし、私達のもっと大きな目的は、地元、八王子、北野地区の皆さんとの交流でした。広報誌等のお陰で、地元でこの3月のコンサートを知らない人はいないのではないかと、と思えるほどの大盛況で、毎회가満席となりました。

10年ほど前のことですが、八王子市絹の道のホームにお住まいの高齢者の方々が、そろってバスで来られました。舞台一番前の席に並んで座られていました。演奏の全曲目が終わったとたんに、何人かが車いすから立ち上がり、手にした花束を、高く掲げて出演者に渡されました。握手もして、届くようにと思いつきに伸ばした沢山の手、その姿は、その後コンサートの度に、誰もが「忘れ得ぬ情景」として思い出に深く残りました。

今回、来年の為にすでに6月には出演者にお願いが出来ていました、しかしその後の7波とも言われる感染者の数字に目を疑いつつ、私達は話し合いをしてきました。私達が一番の目的でもある、あの忘れ得ぬ情景を望むのであれば、一番にお体の弱い方々への思いを真っ先に考えなければなりません。コロナがまだ続く限り、地元のかたには来て頂けないし、そして前回同様にチケットも売れないことをも考えました。話し合った末、来年もコンサート再開は出来ないという判断に皆で行きつきました。

私は9月初めに、お願いしていたご出演者にこの最終決断をお伝えしました。この時は本当に申し訳のない思いが一杯で、心苦しきだけが残りました。

### 「神田川船の会の展望」をお聞きして

長谷川あや子

9月例会は2021-22年度「東日本区最優秀クラブ賞」を受賞された東京グリーンクラブ会長の樋口順英



さんに「神田川船の会の展望」を伺いました。「甦れ神田川！」をスローガンに1979年より

「神田川船の会」を立ち上げ、毎年春・秋の2回船を出し、現在まで42年間活動を続け、昭和、平成、令和と下町河川の清流の復活と護岸の緑化を願いながら、江戸文化、町づくりを紹介されてきました。

1970年代、神田川が汚れていて、「きれいな川にせねば」という声が上がったそうです。調査のため有志で井の頭公園から柳橋までボートで下り、途中、高田馬場付近は浅瀬のためゴムボートを担いで歩いたそうです。下水道が急速に普及してから汚水は直接川に流れ込まなくなり水質は大幅に改善しました。

川の汚れの80%は生活排水だそうです。トイレ26%、台所40%、風呂22%、洗濯10%という結果が出ています。特に台所から出る排水の汚れは深刻ですね。ミルク大匙1杯を流して、魚が住める水質にするには風呂おけ(3000)13杯の水が必要です。私も食べ終わった皿はゴムベラでふき取ってから洗うなど心がけていますが、習慣にするのは難しいです。

私は高田馬場分水路、豊橋～江戸川橋あたりを流れる神田川の付近に生まれ育ちましたが、ずっと昔は染め物業が盛んだったそうです。それだけ川がきれいだったのですね。その後、経済の成長と共に残念ながら川も汚染されてきたようですが、現在は新宿区、豊島区、文京区と区をまたぎながら川沿いに桜が植えられ見事な桜並木となり、季節には大勢の人が訪れるようになりました。

1984年から地域の小学生を招待する取り組みをされ、1997年には東京都環境賞を受賞されました。子ども達が、川から見た自分たちの町を知り、環境問題を考えるよい機会だと思います。

東京グリーンクラブの皆さんの名ガイドをお聞きするのも楽しみのひとつです。日頃からガイドのため

の勉強に余念がないと伺っています。私も何年か前に乗船したことがあります。神田川、日本橋川、墨田川、小名木川をめぐり、沢山の橋の由来をお聞きしました。川から護岸の風景を見るのも楽しいものです。まだの方は是非ご参加をお勧めします！

## ICY2022へ

ひつじくも峯尾心さん、伊藤瑠南さんを推薦

### ICYタイ派遣に参加して

中大ひつじくも2年 峯尾 心

バンコクを経由して約7時間かけて私たちはチェンマイで開催されるICYに参加しに行った。初めての参加だったので流れや何をやるのかもよくわかっておらずとても不安だった。しかし、不安を感じたのは前半のみで、後半からは他国の文化に触れたり、他の参加者と英語で会話をすることがとても楽しく感じた。スケジュールに沿って行動しても時間通りに物事が進まないことが多く、日本との大きな違いを感じた。一番印象的だったのはバスで山を登ったところに住んでいる村人との交流である。私たちはその村に住む方々の話を聞き、普段の生活を見せてもらった。子供たちが通っている学校にはたくさんの児童がいて、日本でいう駒やゴム跳びをして遊んでいるところを見せてくれた。その村では様々な種類の果物や野菜を栽培しており、小学生は私たちに1人2つずつアボカドをくれた。国際線ではアボカドの持ち込みが禁じられているので、タイに住む参加者にアボカドを渡して日本に帰ってきた。小学生たちが作ったアボカドが食べられなかったことが心残りで見残している。この活動を通して仲良くなった友達とまた会うことは難しくてもSNSで連絡を取り続けていきたい。

### ICYタイ派遣に参加して

中大ひつじくも1年 伊藤瑠南

こんにちは。ひつじくもに所属しております総合政策学部1年の伊藤瑠南です。9月3日から10日まで、タイのチェンマイで開催されたICY2022に参加させて頂きました。参加にあたって八王子ワイズメンズクラブの皆様、特に花輪様・小口様、東日本区のワイズメンの方々、そしてひつじくも委員長の関口さん、この度は推薦、事前の準備、手厚いサポート等々誠にありがとうございました。皆様のおかげで一生の最高の思い出になるような素晴らしい経験をすることができました。ICYという素晴らしい、貴重な経験をさせてくださり、本当にありがとうございました。これは私の一生の宝物です。

今回の IYC を通して積極性と優しさがいかに大切なことであるのかに気づかされました。これらのことは生きていく上でとても大切なことであり、自分でもある程度は持っていると思っていましたが、今回 IYC に参加したことでこの価値観が自分の中で大きく変わりました。日本人の感覚では最初は圧倒されてしまうくらい、何か音楽が鳴り始めたらみんな前に出て踊りだしたり、セッションや司会者による問いかけでは我が先にとみんなが自分の意見や考えをみんなの前で共有したり、発表したりしていて“自分ももっともっと前へでなければ！”と、とても刺激を受けた6日間でした。また、私が悲しくなったときに何も言わなくてもすぐにみんなが気づいて“どうしたの？”と集まって心配してくれてそのあとも何度か“元気になった？”元気そうで良かった！私も嬉しい！”と声をかけてくれてあまり今まで話したことがなかった子までもが心配してくれてとても心が暖かくなりました。国や言語、文化など全く異なり、時には言葉が通じない時もあったけれどそれでもみんながすごく心配してくれてはげましてくれてとても良い体験ができたなと思いました。私もこれらの経験を活かして今度は周りの人にそう思われる人になれたらいいなと強く感じました。そして IYC 参加者の中には西日本区の市橋さんのように何度か参加している人が何人かいて再会を果たしてとても感動的だったので私もまた機会がありましたら来年の AYC、そして再来年の IYC にまた参加をして成長し



た自分を見せられたらいいなと思っております。今回は本当にありがとうございました。これからもよろしくお願い致します。



今月のコラム ラム：特集：  
ひつじくもユースアクション2022

ひつじくも・関口委員長

先日、ユースアクション 2022 にて中間報告をさせていただきます。

私たちのテーマはゴミ拾いです。発表は zoom で行い、今回の発表者も前回と同様、ひつじくもの副委員長で関東学生 YMCA でもトップを務めている古屋希実さんをお願いしました。

3月の発表から8月までに全部で7回のゴミ拾いをしてきました。場所もさまざまなどで行いました。(写真を参照)海岸沿いでの活動も実現することができました。

**活動記録②**

- ①立川駅周辺
- ②八王子駅周辺
- ③多摩センター駅周辺
- ④川崎市の土手
- ⑤足立区の土手
- ⑥新百合ヶ丘駅周辺
- ⑦藤沢市の海岸



他にも豪田よしお部主催のゴミ拾いの大会で優勝するなどの成績も残すことができました。そして私たちは新たに学内のゴミ拾いマップの作製も行っております。

私たちの活動は外のグループに比べると規模が小さいかもしれませんが、大学生らしさ全開なところが魅力だと思っています。これからも継続して活動を続けていきます。ありがとうございました。



## YMCA 便り

### 高尾わくわくヴィレッジ

館長 菅野 牧夫

- ◆ 9月3日に「2022 災害スタディ」を東陽町センターで開催し、地域の諸団体や企業、障がいのある方、東京YMCA会員等47名が参加した。
- ◆ 9月21日、朝日新聞、情報7days ニュースキャスターで、サンデーモーニング等のコメンテーターもつとめている平原依文氏(World Road 株式会社共同代表/HI合同会社代表)を講師に、「パーパスから始まるSDGsの自分ごと化」と題して職員向けの研修をオンラインで実施した。約60名が出席し、グループワークも交えながら、YMCAの働きとSDGsについて、学びを深めた。
- ◆ 「第31回インターナショナル・チャリティーラン」は、今年も歩数計アプリを利用したウォーキングイベントとして開催する。10月15日～22日は「らくらくウォーク」(個人参加)、10月22～30日には「チームレース」が行われ、現在46チームが参加予定。期間中の10月22日には都立木場公園内に「フォトスポット」を設け、参加者との交流をはかる。
- ◆ 今後の主な行事日程  
「第24回愛恵エッセイ募集」(愛恵福祉支援財団との共催) 11月11日締切  
テーマ:「断絶を乗り越えて」  
対象:学生の部、専門職の部、一般の部、外国籍の部  
「ソシアス2022」11月20日 オンライン  
講演:川平朝清氏(元NHKアナウンサー・昭和女子大学名誉教授)  
「沖縄復帰50年と平和について」  
「第22回日本YMCA大会」11月25日～27日  
会場:日本YMCA同盟東山荘  
山手センター70周年記念「リーダー会」  
11月27日 会場:山手センター
- ◆ 他団体の動き  
鹿児島YMCAは、樋(はが)雄二総主事に替わり、6月4日に新内博之氏が総主事に就任した。10月8日に総主事就任式が鹿児島加治屋町教会で行われる。

## ひっじぐも便

### 学生YMCA合宿を終えて 森脇 啓心

学生YMCAは静岡県に位置する東山荘にて9月9日から12日までの四日間行われた。私は個人的な用事、というかバイトのため10日からの参戦であった。合宿で行われたのは昨今話題となっている統一教会の元信者であり、現在は牧師として宗教団体の脱会支援活動などを行っている竹迫氏の『「宗教2世」の苦しみ』、日本YMCA同盟スタッフの横山氏の『「21世紀の戦争」から逃れて若者たちは』の2つの講演、そして学生自身が発案し各自興味のあるテーマについて議論する自主ゼミが行われた。私が参加した10日目はまず竹迫氏の講演から行われた。統一教会という一見ビビッドなワードは昔から問題になっており、団体のリアルな現実やカルト自体に対する興味深い話を聞くことができた。その後の自主ゼミでは関西学院大学の方の発案したテーマの自主ゼミに参加し、日本人らしさについて議論を行った。11日目は連続での自主ゼミ。1回目は京都大学の方の陰謀論についての議題。2回目は九州大学の方の科学と宗教の関係の議論に参加した。午後は横山氏の講演。今年勃発したウクライナとロシアの戦争について、実際に日本に亡命してきた方と中継を交えての講演であった。世界の耳目を集めているこのテーマについて実際に体験した方の話を交えて聴く機会というもの是非常に貴重であり、考えさせるものであった。そして夜にはキャンプファイヤーなどのレクリエーションも楽しむことができた。最終日の12日は全体での感想を発表した後電車に間に合うように急いで退却。こうして合宿は終了した。この合宿で個人的に成果といえることは、他大学の人と交流できたことである。もともとつながりのある立教大学をはじめ、普段会うことの難しい関西や九州の大学の方々と交流できたのは新鮮で楽しかった。一方で個人的な反省として自分自身の意見を言うべきであったと感じた。何はともあれ、自分にとって非常に有意義な合宿であった。

## 今月の聖句に寄せて (2022年10月)

今月の聖句の「ヨハネによる福音書 13:34～35」は、「ボランティア」の働きを導く基本聖句の一つといえるでしょう。中国語には、ボランティアを指す言葉として、「自願服務(者)」、あるいは「自願参加(者)」があるのだそうですが、あまり古い言葉ではなく、ボランティアを訳す言葉として新たに生み出されたもののようです。日本語では「有志(者)」ということでしょうか。いずれにしても、英語のボランティアを表す適切な訳語がないために、日本でもカタカナをそのまま使用するようになりました。ちなみに、阪神淡路大震災が起きた1995年は、マスコミから、日本のボランティア元年といわれたのは記憶に新しいところでしょう。

「世界人助け指数」という、国別のランキングがあることを今年6月の朝日新聞の記事で知りました。イギリスの慈善機関「チャリティーズ・エイド財団」の調査によるもので、2020年度版のこの調査によれば、調査対象、世界114の国・地域の中で日本は最下位であった、とのことでした。

調査の内容は、「過去1ヶ月の間に見知らぬ人を助けたか」、「寄付をしたか」、「ボランティアをしたか」を聞き取り、集計したものとこと。全体の1位はインドネシアで、全体で69%(手助け65%、寄付83%、ボランティア60%)。全体の114位の日本は全体で12%(手助け12%、寄付12%、ボランティア12%)。

自己責任論がいわれ、格差社会が深化する中で、「自分が今の自分であることの偶然性に目をむけ、困難に直面しているその人であった可能性を想像する。そんな利他につながる人間観のほう为社会のためには意味がある」と東工大の中島教授は言います。利他の心はどのように起動するか。私達は、すでに様々な多くのものを受け取っている。「受け取ることで生きている」ことに気付くことではないか。と言います。

ワイズメンズクラブがボランティア運動として、社会にどのように働きかけていくのか、ワイズメンズクラブ国際協会成立100周年の今年、日本社会の現実に目を向けつつ考えてみたいものです。 並木信一

### ゲストより一言

#### 甲府21クラブの野々垣健五ワイズ

山梨YMCAの理事長として新会館建設の寄付等でご支援いただいたとして謝辞があり、花輪会長の高校の先輩であること、両クラブの交流への感謝もあり、2種類の高級ブドウを出席者全員に贈与された。



野々垣健五さん 小澤公紀さん



お土産のぶどう



東京西クラブ:本川さん、石井さん、篠原さん、河原崎さん、PRコーナー

11月例会は、東洋英和大を卒業されて直ぐに相撲の「富士桜閣」のお嫁さんになった友人のお話と後藤あずさ部部長公式訪問です。ご参加ください。

### 高尾わくわくヴィレッジ便り 館長 菅野牧夫

少しづつですが、空気が秋色に変わってきました。わくわくヴィレッジも一番忙しい夏休みを乗り越えました。今年度の8月の宿泊者数は2700名を超えてきました。コロナ前の2018年度は4000名を超えていたのでまだまだですが、夏休みのパタパタ感が久しぶりに戻ってきたようでした。9月も2300名強、小学校や特別支援学校の利用が増えてきました。通常の利用の2/3程度ですがありがたいことです。

さて、先日の例会でもお話したように、2022年度のチャリティーランの正式の申し込みを済ませました。今回は八王子ワイズの皆様にご寄付をいただきありがとうございました。通常チャリティーランですと木場公園で行うということもあり、なかなか参加するところまではできていませんでした。おとしからリモートでのウォーキングイベントとなったことにより、わくわくヴィレッジの関係者も参加しやすくなりました。

わくわくヴィレッジはYMCAのカラーを出にくい部署であり、チャリティーという考え方も一般的になっていない職場です。2020年度に初めて参加しましたが、わくわくヴィレッジで働く、YMサービス、レストラン、施設、管理会社の京王ユースプラザのスタッフでチームワークを向上することを目的としました。今年度はそこに、ボランティアリーダーや八王子ワイズの方も加わりさらにパワーアップいたします。対面ではないので顔は見えない状況ですが、わくわくヴィレッジで働く人たちが、ボランティアとしてかかわってくれている方たちを少しでも知っていただく良い機会だと思っています。八王子ワイズの皆さんもどんな人たちが参加しているのか、少し気に留めていただければ幸いです。このような機会を通して、皆さんがつながっていきなるといいですね。皆さんで楽しいイベントにしていきたいと思います。

## 9月第二例会議事報告

日時:2022年9月24日(土)18:00~20:00

### 1. 報告・検討事項

- (1) チャリティコンサート中止に伴う今後の対応  
小口さんより9月4日に仲介者と演奏家及び仲田さんに中止の旨メール済み。  
来年3月例会に JCBL から清水代表か目加田教授を卓話に呼んだらどうかと提案あり、検討することにした。
- (2) 10月第1例会について  
中大ひつじぐもより13人、西クラブより2人、あずさ部後藤部長を含め富士五湖クラブより6名、卓話者、紹介してくれた八王子市明活動協議会岡崎理事長、友人1人にクラブメンバーを含め40人前後の出席者を予定。山本さんがプロジェクター及びパソコンを用意する。
- (3) 11月第1例会について 11月12日(土)
  - ・会場:高尾わくわくヴィレッジ(会場費約1千円)
  - ・会の形式:ハイブリッド・菅野担当主事が対応する。
  - ・パワーポイントを使用
  - ・機の配置、食事については並木班長と菅野担当主事で協議する。  
最初にひつじぐも二人によるIYC 報告会、その後に食事(お膳弁当手配)
  - ・菅野担当主事より Zoom 利用の URL を長谷川さん、小口さんにメールし、二人はそれぞれ関係者にメールして参加を呼び掛ける。
- (4) ひつじぐも「新入生歓迎草刈とBBQ」  
コロナ禍で3年間中止。来年5月に従来形式で開催予定。ひつじぐも委員長と協議する。
- (5) あずさ部他クラブ及び東日本区のイベント
  - ・あずさ部大会・富士五湖クラブ20周年記念例会  
10月15日(土)10時30分受付、忍野村「いちい亭」  
出席予定者:花輪、長谷川、小口、並木真、久保田
  - ・ユースボランティア・リーダーズフォーラム  
9月30日から10月2日までの3日間、  
リーダー33名、カンセラー5名、ワイズ15名参加。  
あずさ部ユース事業主査の小口さんが参加。  
ワイズは事前にPCR 検査を受ける。(出席者(敬称略):長谷川、佐藤、小口、菅野、花輪、望月、久保田、山本、茂木)

## 今月のお誕生

おめでとうございます!

小口多津子 さん 10月4日  
並木 真 さん 10月20日

## 臨時ニュース (久保田書記配信)

卓話は樋口ワイズの「神田川船の会の展望」。丁寧編集された資料「神田川船の会の展望」に基づいて説明。まず、神田川船の会の歴史は1979年に始まり43年の歴史を持つ。船は神田川、日本橋川、隅田川、小名木川を巡り、清流の復活と護岸の緑化を願いながら、橋・川岸に残る文化、歴史などを紹介された。

船の会の活動は、SDGs につながる活動であること、汚水処理、下水道処理の改善による水質向上により川がきれいになり魚が戻ってきたこと、川の汚染の原因となる生活排水の工夫について説明され、近隣の小学校の課外授業でも乗船してもらい種々説明しており、1997年には東京都環境賞を受賞している。2部は、船で神田川、日本橋川、隅田川、小名木川めぐりを「神田川船の会」のハイライト版の地図に基づいて、かかっている橋を中心に説明された。立派な資料と共に、この素晴らしい活動について分かり易く説明いただき、誰もが一度は乗船したい気持ちになった。11月5日の乗船申し込みを受け付けている。

## 高尾わくわくビレッジキャラクター



## 卓話者 竹元正美 様 プロフィール

生年:1945年  
出身地:長野市  
1970年 外務省入省、41年間外交官生活  
米国ドゥルー大学大学院修士号取得(国際関係論)  
外務省アメリカ局、中近東アフリカ局、経済局、韓国大使館、豪州大使館、欧亜局勤務後 宮内庁東宮侍従、その後、大臣官房儀典官、ヒューストン総領事、ホンジュラス大使、ウルグアイ大使、外務省特命全権大使(査察担当)を歴任。2011年外務省退官。  
現在、一般社団法人 国際文化教育協会理事長